

## 第 29 回「国内医科大学視察と討論の会」に参加して

平成 21 年 9 月 17 日・18 日に、日本医科大学（東京都）で標題の会が行われました。（財）医学教育振興財団の主催で、毎年日本国内の医学部 1 校を全国の教員が視察し討論する会です。日本医科大学は 1876 年（明治 9 年）に創立された済生学舎を前身とする、日本で最も伝統ある私立医科大学のひとつです。近年の医学教育改革にも全学一体として取り組み、すぐれた成果を發揮しています。

地域医療に貢献しうる良き臨床医の養成を使命とする佐賀大とは異なり、日本医大ではリサーチマインドを有した医師の養成が主であり、都市型高次機能病院での診療に主眼が置かれています。その分、基礎系、臨床系講座での「研究室配属」が充実しており、半年にわたる週半日の医学生がリサーチを企画し実施するだけでなく、国内外の学会で発表、論文執筆、各種学会賞受賞というレベルまで実践しています。

また、「学生アドバイザー制度」も特筆すべき点でした。学生の少人数グループに担当教員がつき、さまざまな交流をもつ制度は、「チューター制」として本学でも古くからありますが、日本医大では 1 年から 6 年までの学生が小グループを構成している点が異なります。そのほか、日本医大の GP 採択課題「T/Each Other Program」でも、「教えることは最高の学習機会である」をモットーに、学年・学部・地域の壁を超えて教え合う文化の構築を目指していることが印象的でした。

佐賀大の地域医療を志向し、臨床医学を重視した教育とは方向性を異にしますが、リサーチマインドの醸成や学びあう“校風”を積極的に創出しようとする日本医大の姿勢には、非常に学ぶべきものがあると感じました。

（医療教育部門・小田康友）

## TBL ワークショップを開催しました

平成 21 年 10 月 16 日（金）に、「TBL（Team-based Learning チーム基盤型学習）を体験する」というワークショップを開催しました。すでに高知大学で TBL を導入されている三木洋一郎先生（高知大学医学教育創造・推進室）を講師にお招きし、Phase の 36 名の参加者とともに理解を深めました。



TBL は Phase1：課題に基づいた自己学習、Phase2：準備確認プロセス（試験）Phase3：応用課題そしてグループ評価によって構成されます。参加者は、TBL そのものを理解する目的で TBL のプロセスを体験していきました。一人のチューターが、全グループワークをいかに統括するのか、グループ討論をいかに総括的評価に組み込むかの部分では、特に活発な討議がなされました。

佐賀大学は単なる知識の詰め込みから、現場での問題解決に応用できる知識基盤の構築と、問題指向型の自己主導型学習者の養成を目指して 2002 年にハワイ大学式 PBL を Phase に導入しました。講義を半減させ、週 6 時間を小グループ討論に割り、30%以上の時間を自己学習に割り当てたカリキュラムは、日本の



PBL 実践校の中でも先進校の一つとなり、さまざまな成果を上げました。2006 年のカリキュラム策定委員会は、Phase を 2 年間とし、PBL を拡充することを決定しましたが、その内容は「実践的臨床医養成への問題基盤型学習の実質化」として 2008 年文部科学省・教育 GP に採択されるに至りました。

その GP 企画の柱の一つが Phase における PBL と TBL のハイブリッドです。PBL の骨格である症例基盤型学習とグループ討論を通じた学習を保持しつつも、PBL の課題である多大な人的・時間的負担、学習内容の偏りを解消することができます。その分、PBL におけるチューターの介入をより積極的なものにし、臨床実習での BST もより充実したものにしていきたいと思っています。

今回のワークショップでは、TBL の一般的な構成を理解することが中心でしたが、次回は Phase における TBL の実際、学習要綱や課題の設定へと準備を進めていきたいと思ひます。

（Phase チェア・小田康友）

### 教育広報部会

小田康友、池田豊子、市場正良、吉田和代、江村正、藤田君支、阿部博美

ご意見をお待ちしています ([oday@cc.saga-u.ac.jp](mailto:oday@cc.saga-u.ac.jp))